
天才ってめんどくせー～シカマルにトリップしました！？～

瞬牙

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天才ってめんどくせー～シカマルにトリップしました！？～

【Zコード】

Z2281BA

【作者名】

瞬牙

【あらすじ】

元闇魔に誤つて殺された主人公が、天才児、奈良シカマルとして転生し、なんか元闇魔の息子が忍術にんじゅつじやなくて魔法（忍術じやないもの）をつかつて、大量（ナルト並）のチャクラと天才的な脳みそと、全道が使えるようにしちゃつたつていう、シカマルがさらにチートなトリップです。原作？大破壊wwwな、物語です。

「あ？紹介だ？めんどくせーよんなもの。自分でやれバカ。」

若干毒舌度が増しているような気もしますが、相変わらずめんどくせーなシカマル君です。

転生ひじかねじやねえよ、

「いじむじですか…？」

私、普通に中学生として育つていたはずなんですかね…?
名前…忘れたけど、おかしくないですかな。

だつて、

田の前にシノさんとシカクさんがいるんですよ…。

うん、夢か。夢だね。

『夢じやないつて』

うん、夢だ。今のは幻聴だ。幻聴であつてくれ。

『残念だけど、夢じやないんだつて。』

「あー幻聴だ、幻聴。俺は何にも聞いてねー。」

『まつたく…そんなにいつんだつたら会つてあげるよー。ほりー。』

青い髪の少年はあきれたように方をすくめ、両手をかざした。そして一言。

空間移動発動
テレポート

あれ?ここって忍術の世界じゃないのかよ。

そんなことを思つていたらなんだかまぶたが重くなつてきた。

「あら、シカマル。おねんねするの?おやすみ。」

『シノさんの声が聞こえる。

そして、俺の意識は暗い影へと落ちていつた。

『シカマルー・シカマルつてばー起きてよー。』

なにやら声が聞こえる。

『お、やつと僕の存在を認めたね、奈良シカマル。』

「あつ、」

『こま活打ちしたでしょーー神に向かってー。』

「してねーよ。ちつ」

『ほらました!』

「わーった、わーった。から、事情を説明しろ。」

『そういうば、ここでは前のように話すことができるよつだ。最初に、俺はシカマルじゃねー!!』

つて叫ぼうとしたときには全く口が動かず、諦めた。

『まあいいか。ここには君の夢の中であり、現実だよ。君は一度死んだ。』

見た目が小学生にしか見えない自称神は、深刻な面持ちで告げた。

「俺が死んだだと?」

俺は自分で分かるくらいの素つ頓狂な声を上げた。

当たり前だろう。人間どんな奴だつて死んだつて聞かされたら驚くだろ。

『正しくいうと、殺された、かな。』

また、自称神は深刻な面持ちで告げた。

「だれにだよ。」

今度は驚かず、冷静でいられた。

『んと、僕のお父さんに?』

「よしあまえさ、父さんの責任とつて死ね。疑問形なのがさらにムカついた。」

俺は自称神に近づいていく。

『ちょ、まつた! タイム! タイム!』

自称神があわてふためく。

「なんだ、文句あんのか。」

『おおありだよ!! 僕が死んだら閻魔様居なくなるじゃんか!!』

必死の形相で叫ぶ。

「え? おまえ、閻魔なの?」

『そう! だから僕を殺したら駄目だつて!!』

「親父がいんだろうが。」

『父さんは責任とつて神を辞めたよ! 神の力を失つて、神だつた記

憶も失つて……ね

自称闇魔はだんだんテンションが下がっていき、ついには目に涙をためだした。

「あーもーめんどくせー！ わー」 たから、泣き止め！ つたく、俺に
どーしきつてんだよ。」

俺は頭をがしがしと撫でながらそいつと、ぱつと顔を輝かせて神はいった。

『あのね、奈良シカマルとして生きてほしいんだ。』
「なんでまた、あの天才児なんだよ。』

「だつてシカマル、好きでしょう?」
「ミア、どうや子ヤニナガ!」

『まあそりゃ好きだ』と「で、お詫びとして、HQ200は

ヤクラ量をプレゼントしましたーあと、一応全遁つかえぬよひこわ
しといったよー』

自称閻魔は眩しいくらいの笑顔でいった。
で、ひとつひとつかかるのは、

「なんで過去形?」

『だつて、君もう生まれてゐじやん。』

「ちなみに、チヤケラ量はどうぐらしなんだ?」「九尾と一緒にだよ?」

あひからかんとハシこやがつた」のまねいへ

「めんどくセー！」としゃべられたな、」のくそ餓鬼。

しかし、あんな子供に（実年齢はしらんが）うれしい？と言わんば
と聞いたかうた
本来なら

かりの顔を向けられたら流石にいえない。

「ああ、サンキューな。」
『うんー。どう致しましてー

生を一歩

「ああ、おまえも神様頑張れよな。」

神は俺に掌をあて、低い旋律で唄う。
きっと俺たち人間には出ない音域の、神しか許されていない呪文を
唄う。

最後の音を聞いたとき俺は眠りについた。

転生ひじやかねえよ、（後書き）

はじめましてー
のんびり更新していくつもりです。
まったくストックがないもので：
こんなバカ作者ですがよろしくお願ひいたします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2281ba/>

天才ってめんどくせー～シカマルにトリップしました！？～

2012年1月5日20時55分発行